資料渉猟余話

その122

岸本與と幻燈機をめぐって 上

嶋　不濁

廃棄処分になる本や書類に混じって、1台の幻燈機とガラス板の種板がMSCに寄贈された。MSCの収集対象からは少しズレているので、普通ならばそのまま廃棄するところだ、が、しかし、仕事の合間をみて、十数年来かけて目録をとっている「南信」（日刊紙　明治35年～）に、宮岸生岸本與（あたえ）なる幻燈師が度々登場して気にかかっていた。岸本は「南信」に明治42年から翌年にかけて「太郎修学旅行」を100回以上寄稿したり、「社会教育講演幻燈」「根羽漫遊記」「平岡漫遊記」など、大正期にかけてかなりの頻度で名前がある。気になって目録にメモを取り出す前にも、幻燈を持って飯田下伊那、各地を巡回していたという記事があったから、今回寄贈された幻燈機が、彼が使っていた時代の幻燈機の可能性もないわけではない。ガラス種板にもしかして飯田下伊那の景物でも写っていないだろうか、という淡い期待もはたらいて、改めて岸本與と幻燈について少し調べて見ることにした。

岸本與は明治6年（1873）11月、長野県上伊那郡宮田村の岸本喜一郎・こまの二男として生まれた。幼名は與曽吉。宮田小学校高等科を卒業して、17歳で旧高遠藩士真壁貞義方に学んだ明治23年頃、幻燈に出会った。19歳の時、130チセンの小躯で徴兵検査に不合格したこと、結婚分家を機に、明治31年25歳のとき社会教育事業として幻燈機を使う志を持ち、幻燈機を購入するため徒歩で東京に旅立つ。明治32年26歳の時、漫遊教育幻燈会趣旨（決意文・未見）を書き、6歳年下の後藤源一とともに巡回講演の旅に出る。33年27歳の時、山梨県内、長野県上下伊那において連日連夜、幻燈会を開いた。（桐山實夫『幻灯・映画　岸本與物語』平成3年、他）

実際、諏訪以南がエリアであった飯田の日刊紙「南信」（明治35年～昭和13年）にも、幻燈会の記事がある他、以下の記事がある。

明治39年：4／2　若干坊「幻灯会感」～・7／26「慈善扇子」・8／6「小倉氏の成功談　上」小倉嘉一（上久堅）・9／29「原九右衛門翁」・10／16「日韓併合話　1」～6

明治44年：2／11「社会教育講演幻灯」・5／17「小野村の今昔」

また「南信」に名前が出だす以前、長野県南部の有意の青年たちを糾合した『伊那青年』（明治33年2月～明治36年2月　復刻版資料）にも、明治35年3月に入会して青年会を通じた活動の幅を広げようとしている。

そのほか『明治参拾七八年　下伊那郡時局誌』（明治42年）は、郡下の青年団体の活動として出征軍人遺家族や軍人のため、労働奉仕や金銭献納・慰問状・「南信」新聞・雑誌・烟草を送る活動の他、以下のように幻燈会が各地で盛んに催されていた。

「岸本氏ヲ聘シテ時局ニ関スル幻燈会ヲ催シ極メテ盛会ナリシ」（上郷村黒田青年団）とある他、岸本の名前は出ていないが「上郷、松尾、下久堅、喬木、龍江、桐林、青年会及同窓会ト連合シ軍人家遺族扶助料募集ノ目的ヲ以テ日露戦争幻燈会ヲ各地ニ開催セリ」（駄科青年同盟会）、「本村各部落ノ少年会ト連絡シテ幻燈会或ハ戦況報告会ヲ開キ」（伍和村温旧会）、「出征軍人遺家族等ヲ招キ幻燈会（荒井大超師）ヲ開キ慰問スル」（千栄学校同窓会）、「三十七八年戦役ニ関シテハ幻燈会ヲ開催スルコト再三」（山本村竹佐同窓会）、「幻燈会ヲ催シ多少ノ寄付ヲ仰ギ之レヲ軍人遺族救護ノ料ニ充テタリ」（山本村善友会）、「（出征軍人）家遺族慰問ノ為前後三回幻燈会ヲ開キ」（山本村久米尋常小学校同窓会）、「幻燈会ヲ催シテ戦況ヲ知シメ」（上清内路青年会）、「尚慰問ノ為メ幻燈会ヲ各所ニ開クコト数回ニ及ベリ」（豊村和合區青年会）、「紀念ノ為幻燈機ヲ買入レ戦争ノ状況ヲ写シテ家族ノ慰問ニ供シ尚隣村ノ希望者ニハ技師ヲ付シテ無料貸与ヲナシ」（伊賀良村上青年会）、「軍人家遺族慰籍ノ為メ幻燈会及ビ講話会ヲ開催スルコト前後数回ニ及ベリ」（神稲村伴野協同会）、「幻燈会ヲ開キ家族ヲ慰問セシコト（中略）前後二回」（喬木村富田）。

これら、すべてに岸本が関わっていたかどうかは定かでないが、日露戦争前後には幻燈機を担いで下伊那中を駆け回る岸本の姿が見えるようだ。

こうした活動が認められ、大正3年（1914）41歳の時に長野県知事から表彰、金30円を授与された。これは新たな電灯幻燈機を購入する資金になったと前掲『幻灯・映画　岸本與物語』あるとおりだろう。翌5年には信濃教育会社会教育部嘱託となり、財団法人中央連合教化団体連合会より表彰、その後も第2回文部省主催移民夏期講習会などに派遣されるなど、右傾化を強める国体に取り込まれ、その活動の場を朝鮮・満州など全国に広げていき、昭和16年68歳の時、映写活動を終え、昭和29年81歳で亡くなった。

大正期には、藤浪無鳴（本名原真平　大正4年曙座で座で「バルジャン」を弁じた）や林天風（本名林茂・大正15年飯田町電気館で「バグダットの盗賊」を弁じた）など飯田町出身の弁士が中央でも活躍し、飯田下伊那も「映画の時代」に入るが、岸本は幻燈機を担いで村村を巡回講演していたのは戦前の昭和16年頃までということなのだろう。

巡講姿

幻燈機